

帯広の森幼稚園
園長だより



春風化雨

帯広葵学園

令和3年度 令和3年4月27日発行 No.3 園長:佐藤敬示

おたんじょうび おめでとう

4月23日(金),4月生まれの子ども達の誕生会が開かれました。コロナ対策のため、2部形式での実施。笑顔のひとつときになりました。

5月以降も同様の形式で行う予定です。



全員で「ハッピーバースデー」を歌った後、前半はもり組さんの歌、後半は部田先生の紙血劇場でお祝いをしました。

主役の子ども達は「名前とクラスと年齢」を大きな声で発表していましたよ。

これからも「毎日元気に遊べて楽しいよ」「生まれてきてくれてありがとう」の想いを交差させる場にしていきたいですね。

園長からのお願い

前号で『路上では「手と目を離さないで」とお願いしましたが、聞いていただけているでしょうか？子どもと手を繋いで歩くなんて、今しかできないことですから、存分に繋いでくださいね。

今回のお願いは『挨拶』です。今の段階では「おはようございます」「ありがとう」そして「さようなら」の3種類でけっこうです。「自分からすすんで」が好ましいですが、これらの言葉をかけられた時にきちんと「反応」できるようサポートしてあげたいものですね。



大人は子どものガイド役

様々な教育書や子育て支援書が出版されていますが、そのすべてを鵜呑みにするのは危険です。とは言え、「ヒント」は隠されているようです。『「信じる」子育て』という本の中にも幾つかありましたのでご紹介します。

①「子育て」というと、
”子どもをしっかり育てないと”
”ちゃんと躱げないと”
そんな思いや責任感が強くなってしま
うと思います。

②子どもを躱げて、いけないことをしたら
叱って、できたら褒めて…の繰り返し。

でも実は、子どもの育ちを助ける上で必
要なかかわり方は「上の立場から下の立
場の人に対する」かかわりではないのです。

必要なかかわり方とは、相手を対等にみ
るかかわりなんだそうです。

③そんな時にヒントとなるのは、
子どもをガイドする
というかわりだということです。

⑤子育ては、責任感から”大人がちゃん
と子どもを育てないと”と義務感が先行
してしまいがちですが、主人公は子ども
です。
子どもは、大人が育てるものではありません。
大人ができることは、子どもが育っ
ていくのを助けること。

④この世界に先に生まれて子どもより
も経験や知識が少しだけ多い大人が、こ
の世界のガイド(案内人)となって子ども
の育ちを導くという考え。

この世界でのルールや生き方を躱げる
のではなく、繰り返しやって見せて、繰り返
し伝え、育ちに必要な環境を用意する。

⑦少し肩の力を抜いて、”ちゃんと育てよう”
という義務感から”育ちを助けるために
案内しよう”というスタンスで捉えてみては
いかがでしょう。そうすることで、子ども
のできない姿を受け止められたり、大人
の言う通りに動かない姿を待てたりで
きるかもしれませんよ。

⑥そのために、この世界のガイド(案内
人)となって人間としての生き方を示して
いくのです。
”子どもは大人が育てるもの”と感じて
いると責任感で疲れてしまったり、思い
通りにならない子どもの姿にイライラし
たりすることがあるかもしれません。